



Q：白血病について教えて下さい（30代・女性）

A：白血球は骨髄において造血幹細胞が分化、成熟してできます。この造血幹細胞が、増殖・分化に関連する遺伝子の変異によって腫瘍化し、骨髄で異常増殖した病態が白血病です。

白血病にはさまざまな種類がありますが、大きくは急性白血病と慢性白血病に分かれます。急性・慢性の区別は、経過ではなく増殖する細胞の型によるもので、幼若細胞が増殖するものを急性白血病、分化・成熟を伴いほぼ正常な形態を有する細胞が増殖するものを慢性白血病と呼びま

す。急性白血病は多くは急性に経過し、治療しなければ数カ月以内に死亡します。症状は、急性白血病では、骨髄中で幼若細胞が増殖することにより、正常な赤血球・白血球・血小板の造血が障害されて減少し、全身倦怠（けんたい）や息切れなどの貧血症状、風邪をひきやすいなどの易感染性、鼻血や歯肉出血などの出



血傾向や皮下出血などが見られます。慢性白血病は発症がゆっくりで、無症状で長期間経過することも多く、健診の血液検査で発見されることもよくあります。

（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F）

☎0555・288・1801